【巻頭言

最後の「呼び出し」

私が李登輝総統に仕えた八年あまり、片時も電話を手放すことはなかった。早朝や夜遅くに電話が鳴る。相手が「非通知」だった場合、それは十中八九、総統のご自な?」とか「今日もらった報告だけど、もっと詳しい資早に「来週の講演だけど、どのテーマで話すのがいいか早に「来週の講演だけど、どのテーマで話すのがいいかまだったし、「詳しく相談したいから今から来てくれ」常だったし、「詳しく相談したいから今から来てくれ」と呼び出されることも珍しくなかった。

の夜のことである。
不思議なことがあった。総統が亡くなった七月三十日

か」と、電気をつけて何枚か執務室の写真を撮ったのでか」と、電気をつけて何枚か執務室の写真でも撮っておこうま務所に取りに戻った。そして事務所に戻った私は、ことに気付いた。普段であれば、自宅には他の背広もあるためほとんど気にしない。事務所に戻った私は、こず務所に取りに戻った。そして事務所に戻った私は、こず務所に取りに戻った。そして事務所に戻った私は、これまたなぜか「総統の執務室の写真を撮ったのでれまたなぜか「総統の執務室の写真を撮ったのでれまたなぜか「総統の執務室の写真を撮ったのでれまたなぜか「総統の執務室の写真を撮ったのでれまたなぜか「総統の執務室の写真を撮ったのでれまたなぜか「総統の執務室の写真を撮ったのであるだった。当務所を出たところだった。ビル私はちょうど淡水の事務所を出たところだった。ビル



李登輝元総統秘書

書早川友な

当の秘書から受けた電話が「その知らせ」だった。ある。そして再び階下に降り、歩いている途中に自宅担

になるんだ」とよく言っていた。「輪廻転生を私は信じない。私たちは死んだら『千の風』妻がこよなく愛する曲だ。キリスト教徒だった総統はいた。私は「千の風になって」を思い出した。総統ご夫めの日は、真夏にしては珍しいような強い風が吹いて

いま振り返って思う。あのとき、総統は千の風になって淡水の事務所へ戻ってきたんだろう、と。総統を退任て淡水の事務所が活動拠点となっていた。千の風になったたこの事務所が活動拠点となっていた。千の風になったたこの事務所が活動拠点となっていた。千の風になったにちがいない。けれども、電気が消えていてよく見ったにちがいない。けれども、電気が消えていてよく見ったにちがいない。けれども、電気が消えていてよく見ったにちがいない。けれども、電気が消えていてよく見ったにちがいない。けれども、電気が消えていてよく見ったにちがいない。けれども、電気が消えていてよく見ったにちがいない。けれども、電気が消えていてよく見ったにちがいない。